



再刻

和漢朗詠集

加藤の軒 乾



倭漢朗詠集卷上目錄

春 立春 早春 春興

あさのうららかなるる
あけぼののうららかなるる
あけぼののうららかなるる
あけぼののうららかなるる

倭漢朗詠集卷上目錄

春 立春 早春 春興

春夜 子日 三月三日 桃葉集

三月盡 閏三月 鶯 露

雨 梅 柳 花 躑躅

款冬 藤 ○ 夏 更衣

首夏

夏夜

端午

納涼

晚夏

花橋

蓮

郭公堂

蟬

扇

秋

立秋

早秋

七夕

秋興

秋晚

煉衣

八月十日家月付

九月九日菊付

九月

女郎

秋蘭

松栽

紅葉

鴈

出

鹿

露

霧

摘衣

冬

初冬

冬夜

歲暮

爐火

霜

雪

冰

霰

佛名

和漢朗詠集卷下目錄

雜

風

雲

晴

曉

松

竹

鶴

猿

管

絃

文

詞

酒

山

水付漁 禁冲 古京 故宮付殿 仙家付道士 隱倫
山家 田家 隣家 山寺 佛事 僧
闲居 眺望 鏡別 幻臨 庫中 帝付法
親王付王 丞相付執 將軍 判使 詠史
王昭君 妓女 遊女 老人 交友
懷旧 述懷 慶賀 祝祭 無常 白

春 立妻

逐吹 潜閑 不約 芳菲 之候
逢妻 欠愛 將希 雨露 之恩
池凍 東頭 風度 忽忘 梅山
面雪 封寒
柳衰 氣力 條先 勅池 有波
文冰 盡閑

かきんをきくこふこかりのしんすきとこ
うらららるるあらわゆるるるらりら
見こしききはしりらるるねよゆき
こらふつしりくせはるりふり

春真

花下忘海園羨京橋お動研先春風
野原芳花紅錦地花絲線孔碧雁天
歌酒家花更さるるを炭灰上揚去
山桃溪野桃日曝紅錦之幅門柳

溪岸柳風宛麴塵之線
著野唐衣の錦繡尚天遊藏忘舞後
林中花錦河舞落を外遊線或るを
望秋秋月夜と田詩海雲風衣を情
さくさくさくさくおかまわ人いし海あまわ
まはかんとさきまきくきりぬさかさうら
あはれけしきり人いあ

春夜

宵猶若情深
春月踏花回
惜芳心
まられ敷乃やま
いあやあ
むれんのか
交しそんて
縁りやま
のめ
子日 付若菜

倚松樹以摩腰
お風お難
和菜
愛に
年
梅むる
梅頭二月
君若菜

縁乃い
らよのため
手
君よ
縁乃日
花

若菜

野中
和菜
俗人
居之
裁指

あさうしつらふつらんときりし
このあもくふもゆきいりり
かきしつらふ人のしつらふ乃
つらふつらふつらふつらふ

三月三日 付 桃花

春未通先桃花水不辨仙源何處為
春の書月三朔天醉千花桃李
感我后一日之澤万機 餅世水難登
空平雲雖絶幸已字の如地勢思魏文

以我風流畫志 水成已字物三日源起因
煙霧幸幸在夜因戶桃李溪源似初
水成已字物三日源起因 後夜霜
殿石在連來心竊約幸流遠る先
我為偷酒者彼之眼新婚曉風
吹不云くは先候

とらふさくさくさくさくさくさく
とらふさくさくさくさくさくさく

暮春

拂水柳花子方残海梅莺舌未
低知沙鸥的落暖乱绿野鸟
人言少时须惜年
割白翁知今日好
三月五日

三月五日

笛去不闻春海人
不气风乱舞
竹院春未消
惆悵春海笛
送春角劫每車
后使松光
笛去不闻春海人
不气风乱舞
竹院春未消
惆悵春海笛
送春角劫每車
后使松光

くふのこしけりとおもふもなほしるるも
きりりしむとさき花乃けり
ふふもみふらりあつちやふふゆくふふれ
あつちやふふらりあつちやふふ
まふちよむしるるしるるしたのふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふ

国二月

今年国在春二月利足連後一月屯
帰漢秋鶯文運曲於私事
辞林舞蝶を融花一月花

花梅海根重直情多期合官定延約
人のあつちやふふふふふふふふ

鶯

鶯以爲忠信約上鶯未出老賢立者
惟家碧樹音啼の羅常一程表
茂中又毒そまふ首の附着庵未也
咽旁山鶯啼为少集何道筆集法谷

春以有法... 鶯聲誘... 或同... 會... 燕... 周... 新...
(Small vertical text on the right side of the page)

西橋月... 西橋月...
(Small vertical text on the left side of the page)

履

淡... 淡...
(Small vertical text on the left side of the page)

さびしうやうやういふはるあまの
うきとら乃やまたるやたらよなり
まうたつんそあやいはこえんうい
ういしのふりるありう
あさしりともいれあゆさむい
らんふなりすこいきふしあまなり

雨

或垂花下潜惜墨子思时舞
疑君暗勤潘而之思
長樂鐘花外盡法地物色在源

養清自为花父母洗来寧辨楽君花
花新開日初陽潤鳥光輝何落暮花
斜射暖風定存処晴存朝日未晴
あをやささのえさういさるまさあ
いしめぬけらたまうさるま

梅 付 ぬ 梅

白片落梅浮烟水英指新柳出城墙

梅花若著香能翠今上柳文和烟入酒中
漸薰臘雪新封裏依凭春風未忍先
青綠深若陶白玉快如成度最
不厭蒼老生來但憶大度万株香
誰言去色堪東面為暖南枝花始開
いあしやん 孫こしん ーわやの
より本乃じぬいんかさたりんり
わんせこりいんせしんしんじぬ乃花
そんしんしんしんしんしんしんしん

あんと多んくられおんじんじぬの花
あわあしんしんしんしんしんしんしん

紅梅

梅會鶴古曲の氣は美増れ若若くは淡の
鮮指仙方君宛色淡香若若好極 在後意
有名易易分跡若底色 難如夕陽中
仙回風生を散る野燈少暖未揚煙
あんと多んくられおんじんじぬの花
あわあしんしんしんしんしんしんしん

久うとのおのじもいさをも免んころ那
はのあふよふよそくてそらふ

柳

林雪の心又吟筆に描物誰か曝露
ゆ欽拂地跡馬家来多産得上橋人
巫女廟花の似物昭君村柳翠於眉
穢知老を風情少見は牽牛一句待
大原巖に梅早落誰の粉粧道爲心

之香未算量越の勢

雲霧紅院枝葉日春嬌若珠嫩柳風
愁窓暈晴庭月暗陸池逐日水烟涼
漂心月夜交和權岩風牙浪系系苑

あそやまき乃いしよりこめくまらし
けりくれいあさつわらふこよまういれ
あそやまきのまゆこいそれわいそあま
ま乃らりりそ色まさらりそあ

花

花の上を花に平遊九陌
花の影を花に斜月影
手着の衣沈色深き
色見の人家花役入
深は表裏一入再入
誰謂水無心流
榮日堂風高低子
誰謂水無心流
榮日堂風高低子
誰謂水無心流
榮日堂風高低子

花の上を花に平遊九陌
花の影を花に斜月影
手着の衣沈色深き
色見の人家花役入
深は表裏一入再入
誰謂水無心流
榮日堂風高低子
誰謂水無心流
榮日堂風高低子
誰謂水無心流
榮日堂風高低子

春中一り多してさうらのなうり勢力
ゆるれうろのけけりま
の屋と乃けかえりけりけり人
ちらる心のらをこしけりま
るくのまや人よりまじやま
ていれけりけりけりま

落花

落花不借空林树流水无心自入池
朝踏落花相伴出香泥花为一时
春花面入罽毳送晓莺声

縁糸憐爾之症

落花狼藉風狂好掃香泥踏面打

離園鳳翅嗚檻暮下橋煙柳願階

さうらうらうこれけりけりま

や乃そらまれものまやほこころあ

躑躅

晚葉尚開紅躑躅秋房初結白芙蓉

夜抄人紙巻本把美合家夜抄抄卷
おまじいりつるまのやま乃思つし
いふのこもあまこりくきりりり

款冬

燕着雄黄天乃三款冬送暖書長風
書忘有書相収松石紙字又未なる
わつやとのやへ乃屋よりあまこり
りりのこもあまこりくきりり

友

懐望意興三月盡いそ友花落多雨
葉友落庭跡む色葉竹煙井書多色
そこころうのそこころふやあらるる
かこしてゆるむいぬむ乃ぬ免
とまいるるさり乃あそそりあやあくを
あくまいるるさりのそこころうの

夏更衣

宵望枕涼縮着縮着夜書海の者

體の題目は眼かゆ花中睡者根
るらんとあふ乃あふりよ志まぬん
あよりはつもとたすしあさひく

郭公

一聲山鳥暖雲外方鼓水螢秋
さつさやとたかつうあまきとあ
あくたろく急乃いしとらけあ
ゆさやらららららららららら
いましゝ急のさうゆるしあ
はらあゆく福さあらあさしあ
日しりくふしとささくうららき

螢

螢火乱花村を度星つ中及秋初長
菖蒲流水暗螢知秋楊柳風を宿道秋
明も仍在誰追月光於屋上皓
ふゆき螢秋音片お床頭

山徑老叟疑の油燈為中似清流

あふあつさああささるる屋しりし乃
う勢よささあさささあさささ

わきの川のくさきしきたるこり
あつきののせきとるやうさき
あつきののせきとるやうさき
あつきののせきとるやうさき
あつきののせきとるやうさき

秋 立 燈

蘭 蕪 涼 風 与 暮 景 誰 為 討 云 一 何 秋
鶴 歩 葎 回 秋 夕 難 考 趣 処 晚 吟 燈
あつきののせきとるやうさき

う地つひふよそああーさころなまらふ
あつきののせきとるやうさき

早 秋

但 喜 暑 地 三 伏 未 知 秋 三 二 毛 未
槐 花 雨 潤 新 杖 地 相 葉 風 涼 散 秋 天
炎 凉 刺 残 夜 漏 重 晚 涼 浩 ち 第 三 毛 未
あつきののせきとるやうさき

七 夕

あつきののせきとるやうさき

憶得少年長乞巧竹竿頭上死緣每
二星通處未叙別結依之恨又夜
將明頻驚涼風飄之聲
露在別淚珠在落雲是海嶺未成
之夜寒浪寒在漁釣橋後流月秋清
洞花嫩波雅且是心巧月秋為媒
風浪昨夜來於孤島落及的胡波之禁

あはれ川とてさしこころあはれ
さうらりあはてしなくさす
ひさしりしあはれたしこころなり
あはれんあはれなりあはれ
あはれんあはれはとてさすあはれ
あはれんあはれはとてさすあはれ

秋興

林間煖酒燒紅葉石上題詩拂綠苔
楚思妙花也水空高夕清映管絃秋
大底四時心也若然中賜以是秋王

物色自堪傷 客心宜將愁字作 杖心
由來感田在 秋多致 尚何言 為素
第一傷 念何愁 夜竹風鳴 夜月
蜀茶 漸忘 浮花 味 練新 倚 碧
うらさくいんせい乃 野色 の あれ
れそよ人 ことほふきよか
あまのうりせんたれ
あまのうりせんたれ

秋晚

相思夕上松 暮草 田 蟬 在 海 耳 秋
望 山 出 月 程 秀 彩 独 初 苑 泉 將 倍 声
をうらやまありし乃 野色 の あれ
あまのうりせんたれ

秋夜

秋夜長 心 世 聽 こと 的 秋 紗 燭
宵 望 親 菊 暗 面 打 忘 吟
年 澄 海 初 長 秋 星 河 秋 晚 之

上

三十一

碧海金波三秋風計
自疑荷葉凝
片白雲迷松上鶴
瑞池便是釣岩
金青一溜林風
揚貴妃歸
あのおとふとふと月あつた
こころいそあをれり
あつたあつたあつた

月

誰人憐外之
秋水漲來
不波臨中
天山不露
欲知
御海

不先花中偏毫菊似花開後更先花
 嵐陰欲暮并松柏 後凋之蘭之生也

郡縣村園皆陶家兒子不棄堂
 蘭苑自悲為俗骨 採難老有七生
 榮華苑自推紫以 蓬萊洞月照雲中
 ありありとよけしとわかれんたり 一とせん
 とささしとをさるる志とさく乃花

いささなりをれう金りしとふささるる
 あさつりしとあやまこさるる

九月畫

瓶以諸函力固却留蕭瑟也 懼
 合宜者る進何意爽然於風恍
 頭自疑似禪多乞以秋隨之 在
 父者榮遷白駒京洞海祇舟の
 山うひーあさもくまあといはくふり
 まうさぬ乃をさしふとるる物

嘗不羨平秋風吹る先敗
凝如渥女顏施粉滴似鏡人眼泣珠
世驚楚客秋紅韻夢以盡短曉枕夢
ぬきぬきうけはゆらひつあきさけり
そらぬきうけはゆらひつあきさけり

櫬

松樹子手終乞栲櫬花一日自為榮
未而不留離陸有拂晨

白不返櫬離乞投書之花
おんつつかそれとらあそつこの
あそつこのあそつこのあそつこの

前栽

自吾困窮家傳從長樹春栽秋老花
困思看汝花紅日正氣當若髮白

城柳言搖搖為秋悲之者人心
梧楸於中一夢之雨之濕鷓鴣背
上數行紅纒殘

推種性反杖年年實長夜隱
傳遊履踏首推仙之藥

逐秋光多景苑月每朝危少漢林風

あまのうきはりみらなまありうんしき
やうれあきうとあきそしあき
ねりあきしあきしあきしあきしあき
見ふ人もあきてらりぬらわらやまうき
りみらりあきあきあきあきあき

鴈付帰信

万里南を三春鴈水苑之知何來
月待女同歸

尋陽江色潮添滿款畫杖聲辱來

床煙經脚卷花團盤狀定心嵐乳峯
山館西河鳴自晴野暮風吹又織於空
飛色悲遠風夕晴染座吐曲月色寒
いまこんとそんねてころめを舞杖れよ
あしつらつてまらむのあ
きりくともてあまそあれた乃兼志
ありあれたしんそねたまさなる

麿

養若踏滑僧跡古紅葉声乾麿古林

晴巻念革身爰愛軍跡古赤徳風来
さみらそねとれた乃やまたんともむ
とねまあまてや杖とあき舞
たつてよとら乃ふあく
ふ急のうらむやあまはるる

霧

可憐九月初三夜霧似素珠月似弓
霧瀟素霧寒玉白風衝松竹雜琴清
あしつらつてあまそあれた乃兼志
たましころるよとけりあき舞

勞

竹勞曉統衛殿月殿風晴るる江春
 雖熱夕勞短人枕從老已朝雲出馬跡
 其くく免乃あしきまねんうあさうつれ
 けふのやまんとてらうくさうい

擣衣

八月九月正長衣子新方衣う玉う何
 此斗星前横旅乃南擣月下擣寒衣

擣衣曉然園月次裁衣秋衣寒衣
 裁出衣生長短寒衣秋衣不若擣園
 風庭書院裝袖奉月衣杉衣女眉位
 年別田舊衣為衣裝衣女曉衣
 冬物冬

十月江有天氣好情冬衣以春花

田村君... 物... 夜
床... 夜
...

冬之夜

一... 春
... 生
... 乃
...

歳暮

寒... 利
風... 老
...

燈火

黃... 燈
看... 燈

いふにそぞろ花樹取對未終日有春情
他河發碎雪花下近日那種默成色
くはもひのうしうふくわ
くみまをまうくわりそまを

霜

三秋岸雪花初白一夜林表葉葉紅
萬物秋霜結壞文四圍之自反潤年
困寒之憂駕或添孤婦之堪上山

深感動先後四皓之賢名也

君子夜涼衣不整老病子晚發相爲
聲身之已劇義亭鶴步初駕首履人
晨積瓦漢雪交色秋寒花散鶴音色
秋とさしひも秋とあんとあまやとく

雪

曉入梁雪之苑雪海群山秋光

度之樓月的千里

銀河沙漲三子界梅嶺花開一可株

雷似鶴毛花散亂人披鶴氅立飛個

或逐風不返如振群鶴毛亦尚

晴於殘蕊纒衣物之朕

翅似得君梅浦鶴心逐葉與掉舟人

立於庭上頭為鶴生在鶴邊子亦飛

斑女園中秋扇久替王其上未琴吟

あうりりあうりりあうりりあうりり

あうりりあうりりあうりりあうりり

あうりりあうりりあうりりあうりり

氷封水

氷封水面園無浪君然林頭見有花

霜妨鶴渡空無露水結物疑為石

おがそしる乃月のひりりしうじくさ
かあるんしあそまうりこりりし

春水

氷消見水多お地宮あ望しあ入梅
氷消渥主を類朝古を築しああ牧
胡差海能全使る海海海海海海海
やまうは乃さきこまされるんらわあ
ああああああああああああああ

愛

摩牙本訖聲と脆新領珠投顆と寒
んやまうんいああああああああ

佛名

香自得心無用火花開合掌不固云
わあそまうりしもくられいほくつるあ
はもそのこりりあしあん
あしあしあしあしあしあしあしあし
あしあしあしあしあしあしあしあし

かきつゝあまのつらきものよはなれりしをいふも
よきことなりとてふふとくくら奉

友

紫葢傳身先元色夜花先

初冬

誰家田婦秋播帛月若風吟石杵想

右二句の詩美本在

和漢朗詠集卷上終

和漢朗詠

和漢朗詠集
文化五年

二屋記

